

文化庁委託事業「平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」  
総合的な舞台技術基礎研修に関する研究

# 舞台技術人材育成構想 報 告 書

## はじめに

2001年に文化芸術振興基本法が制定されて以降、文化芸術の振興を通して人々が心豊かに暮らせる社会づくりへの期待が高まってきました。文化施設や文化芸術団体において、質の高い実演芸術の創造、そして公演が安全かつ円滑に運営されるには、照明、音響をはじめ、舞台での様々な業務に従事する技術者が不可欠です。一方、舞台技術者を取り巻く社会環境は変化しており、技術革新による専門の細分化や雇用環境の変化もあいまって、舞台技術者がその専門や就労の場にかかわらず共通に習得しているべき共通基盤の確立、舞台技術者の人材育成システムの整備が課題となっていました。

こうした中、劇場等演出空間運用基準協議会（基準協）は2006年に公演制作現場での事故が続いたことを憂い、公演制作を担う関係者が立場を超えて集い、創設されました。本調査研究は、これまで基準協構成団体である公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）が、基準協の協力を得て行ってきた「舞台技術者の育成に関する調査研究」（2009年）、「舞台技術者の研修教材に関する調査研究」（2010年）を素地として、2013年度文化庁委託を受けて実施されました。

2012年には、文化芸術振興基本法の第25条（劇場、音楽堂等の充実）を具体化する「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が制定され、劇場、音楽堂等の設置者または運営者には、「劇場、音楽堂等の運営を適切に行うための専門的能力を有する人材の養成」が求められています。本報告書では、舞台技術者として現場に携わる委員の議論をふまえ、舞台技術の専門人材やキャリア形成、研修についての考え方を整理しています。また、公演制作に携わるすべての方々に向けた教材『舞台技術の共通基礎』の刊行が予定され、人材育成にあたっての活用が期待されます。

最後に、本調査研究は、多くの関係団体、専門家の方々のご協力を得て実施することができました。ここに改めて謝辞を述べさせていただきます。

## 劇場等演出空間運用基準協議会 構成16団体

日本演出者協会  
公益社団法人日本照明家協会  
全国舞台テレビ照明事業協同組合  
一般社団法人日本舞台音響家協会  
一般社団法人日本音響家協会  
日本舞台音響事業協同組合  
日本舞台監督協会  
舞台運営事業協同組合連合会  
公益社団法人劇場演出空間技術協会  
NPO 法人日本舞台技術安全協会  
大道具事業協会  
公益社団法人全国公立文化施設協会  
公共劇場舞台技術者連絡会  
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会  
公益社団法人日本演劇興行協会  
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会

# 目次

|                                                |    |
|------------------------------------------------|----|
| 1. 実演芸術をめぐる法的整備と専門人材の育成                        | 5  |
| 1) 法律の制定による劇場、音楽堂等の役割の再考 ―― 専門人材の配置と育成の重要性について | 5  |
| (1) 現場の課題から法律の制定へ                              | 5  |
| (2) 法律と指針に示される人材の育成及び確保                        | 5  |
| 2) 舞台技術における専門人材とは                              | 7  |
| 2. キャリア形成の道筋について                               | 9  |
| 1) 日本の実演芸術を担う幅広い人材を集めるために                      | 9  |
| 2) インターンシップの実施にあたって                            | 9  |
| 3) 体系的なキャリア形成                                  | 9  |
| 3. 基礎研修制度のあり方                                  | 11 |
| 1) 劇場、音楽堂等を会場とした研修(案)                          | 11 |
| 2) 教材の活用について                                   | 12 |
| 4. 劇場等演出空間運用基準協議会の役割と関係団体との連携                  | 13 |

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 資料                    |    |
| ○ 新国立劇場 意見交換会 記録      | 14 |
| ○ KAAT 神奈川芸術劇場 研修会 記録 | 16 |
| ○ 兵庫県立芸術文化センター 研修会 記録 | 28 |

# 1. 実演芸術をめぐる法的整備と専門人材の育成

## 1) 法律の制定による劇場、音楽堂等の役割の再考 ——専門人材の配置と育成の重要性について

### (1) 現場の課題から法律の制定へ

2012年6月に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律<sup>註1</sup>（以下、劇場法とする）」が制定され、2013年3月に指針が告示された。この法律および指針の成立の過程から、劇場、音楽堂等のあり方について、関係者間でも広く議論されるようになってきていた。

公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）のまとめた『社会の活力と創造的な発展をつくりだす劇場法（仮称）の提言』（2009）によると、全国に文化施設は3000館近くあるといわれており、そのうち地方公共団体の設置した公立文化施設の多くは、幅広い用途に対応する多目的な施設とされてきたのが主だった。しかし、1990年代に入って、芸術監督や専門スタッフを擁する劇場も設置されるようになってきた。作品の創造・普及を目的とした劇場や、オーケストラやダンスカンパニーなど実演芸術団体をレジデントとする劇場だ。全国にある各施設がそれぞれ運営される中、その目指す方向によって予算規模や人材の配置も異なっており、多様ではあるが、いくつかの特徴をとらえた施設の分類が示唆されている。こうした研究資料を背景に超党派・音楽議員連盟（現・文化芸術振興議員連盟）および文化芸術推進フォーラム<sup>註2</sup>で主催するシンポジウムにおいても、劇場法の必要性についての議論が高まり、議員立法に向けて始動された。

文化庁では、2010年12月に劇場、音楽堂等の法的基盤の整備を進めるための検討会が設置された。これは、審議過程にあった「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）」（2011.2.8閣議決定）での提言を受けてのことである。劇場・音楽堂等の制度的な在り方に関する検討会では、現状把握のため、公立文化施設や民間施設、芸術団体などへのヒアリングもなされ、現状と課題、基本的な考え方、法的基盤や人材について「劇場、音楽堂等の制度的な在り方に関するまとめ<sup>註3</sup>」（2012.1.13）が作成された。

課題としては、施設の文化政策上の役割が不明確であり、施設を設置している地方公共団体の文化予算の減少により、文化芸術の創造活動の実施や鑑賞機会の提供が十分になされていないこと。文化芸術団体の活動拠点が大都市圏に集中しており、地方において多彩な文化芸術にふれる機会が少ない状況が固定化していること。劇場・音楽堂等と文化芸術団体との連携等が必ずしも十分ではないこと。劇場、音楽堂等に配置される専門的な職員に求められる資質は多様であり、人材養成への課題があること。潜在的観客を開拓し、裾野を広げる必要があること。独立行政法人や民間事業者が設置する劇場、音楽堂等と比べて、地方公共団体が設置する劇場、音楽堂等には、専門性を有した人材の配置が少なく、配置されている職員の主たる業務が公演ではなく施設管理に係る業務になっている場合もあること。指定管理者制度の導入により、事業内容の充実や専門的人材の育成と配置、事業の継続性などが必ずしも重視されず、

註1 [http://www.bunka.go.jp/bunka\\_gyousei/hourei/ongaku\\_houritsu.html](http://www.bunka.go.jp/bunka_gyousei/hourei/ongaku_houritsu.html)

註2 現在、文化芸術関係団体15団体で構成。議長は野村萬。 <http://ac-forum.jp>

註3 <http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/kondankaitou/engeki/pdf/matome.pdf>

施設運営が困難な状況も見受けられる、といったことが指摘されている。

こうした現状認識をふまえ、文化芸術の役割と劇場、音楽堂等の機能が整理され、今後の劇場、音楽堂等の在り方としては、国や地方公共団体、民間事業者、文化芸術団体等が連携して、社会全体で文化芸術を提供する環境を整えることによって、より多くの国民に対して様々な文化芸術活動に触れる機会が提供され、我が国の文化芸術の水準が高まることを目指すことが示された。また、それにのっとった法的基盤の内容が提示されたことを受け、立法化が進み、2012年6月27日の公布に至った。

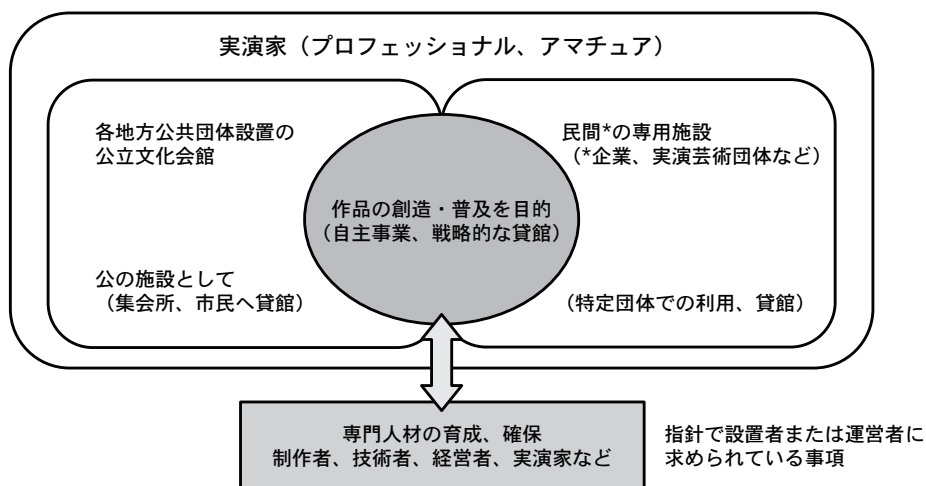
## (2) 法律と指針に示される人材の育成及び確保

劇場法では、「劇場、音楽堂等」、「実演芸術」について定義し、劇場、音楽堂等の事業や役割について示している。また、国、地方公共団体、実演芸術団体等の役割も記され、関係者の連携により、国際交流や地域における実演芸術の振興、学校教育との連携などを促すものとなっている。人材の育成及び確保等を謳った第十三条においては、「国

及び地方公共団体は、制作者、技術者、経営者、実演家その他の劇場、音楽堂等の事業を行うために必要な専門的能力を有する者を養成し、及び確保するとともに、劇場、音楽堂等の職員の資質の向上を図るため、劇場、音楽堂等と大学等との連携及び協力の促進、研修の実施その他の必要な施策を講ずるものとする。」と記されている。

2013年3月29日に告示された「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」においては、法律制定の過程で明らかにされた課題を克服し、劇場、音楽堂等の事業の活性化を図ることを目的として設置者または運営者が取り組むべき事項が定められている。ここでは、「3 専門的人材の養成・確保及び職員の資質の向上に関する事項」として、設置者または運営者に(1)劇場、音楽堂等の運営を適切に行うために実演芸術の公演等を企画制作する能力、舞台関係の施設・設備を運営する能力、組織・事業を管理運営する能力、実演芸術を創造する能力、その他劇場、音楽堂等の事業を行うために必要な専門的能力を有する人材の養成を行うよう努めること。そのために、他の劇場、音楽堂等、実演芸術団体等及び大学等と

図1：文化施設と利用者のイメージ



連携・協力し、実践的な知識及び技術を習得するための研修その他の養成のための機会を設け、人材交流を行うよう努めるものとする。(2) 専門的人材の範囲の特定、確保の方法、職制等を明確にし、専門的人材を配置するとともに、各自の能力を十分に発揮し得る職場環境を確保するよう努めるものとする。として、「必要な専門人材が配置されている劇場、音楽堂等」と「それ以外の劇場、音楽堂等」それぞれにおける具体的な留意事項を挙げているほか、(3) 劇場、音楽堂等を適切に運営するため、関係機関と連携・協力しつつ、職員の資質の向上を図る研修等を行うよう努めるものとしている。(図1：文化施設と利用者のイメージを参照)

また、「9 安全管理等に関する事項」では、劇場、音楽堂等が安全かつ快適な施設として維持管理されるよう設置者と運営者との間で責任を明確にし、適切な分担を図ることが記され、施設・設備の安全管理を適切に行い得る体制の整備に努めるために劇場、音楽堂等の安全管理に関する基準等を参考とすることも示唆されている。文化庁からの指針告示の通知の中では、この参考として劇場等演出空間運用基準協議会の『劇場等演出空間の運用および安全に関するガイドライン』(2012／以下、『基準協ガイドライン』とする)が挙げられている。

## 2) 舞台技術における専門人材とは

公演制作にどのような専門人材が関わっているのかは、前出の『基準協ガイドライン』に、その職能と役割が示されている(図2を参照)。公演規模

によって複数の役割を1人の人間が兼ねたり、役割を分担する場合もあるが、大きくは、A：制作者、B：公演監督、C：デザイナー、そしてD：プロダクション・マネージャー、E：技術監督、F：舞台監督のもとで動くI：舞台部門、照明部門、音響部門、映像部門、電気部門それぞれの専門人材。G：施設管理者側でのH：劇場技術管理部門責任者と舞台、照明、音響の担当者となる。また、Iは乗り込みスタッフだけでなく、公演に携わる劇場の専門スタッフも含んでいる。(各職能の一般的な役割と業務内容、責任の概要は、基準協ガイドラインを参照)

以下、舞台技術における専門人材としてF：舞台監督(E：技術監督、D：プロダクション・マネージャー)、H：劇場技術管理部門責任者、I：舞台・照明・音響・映像・電気部門のスタッフについて、舞台技術人材育成構想検討委員会での議論を記す。

舞台監督(F)は現場(稽古場・劇場)のマネジメントを行うため、「経験」と「知識」、「発想力」が求められる。安全性や時間の管理、劇場側との交渉などについてどれだけ知識と経験を持っているか、また稽古場で作り上げられたものをいかに安全に舞台上で再現するか、その発想力と豊富な経験と知識に基づく判断力が求められている。

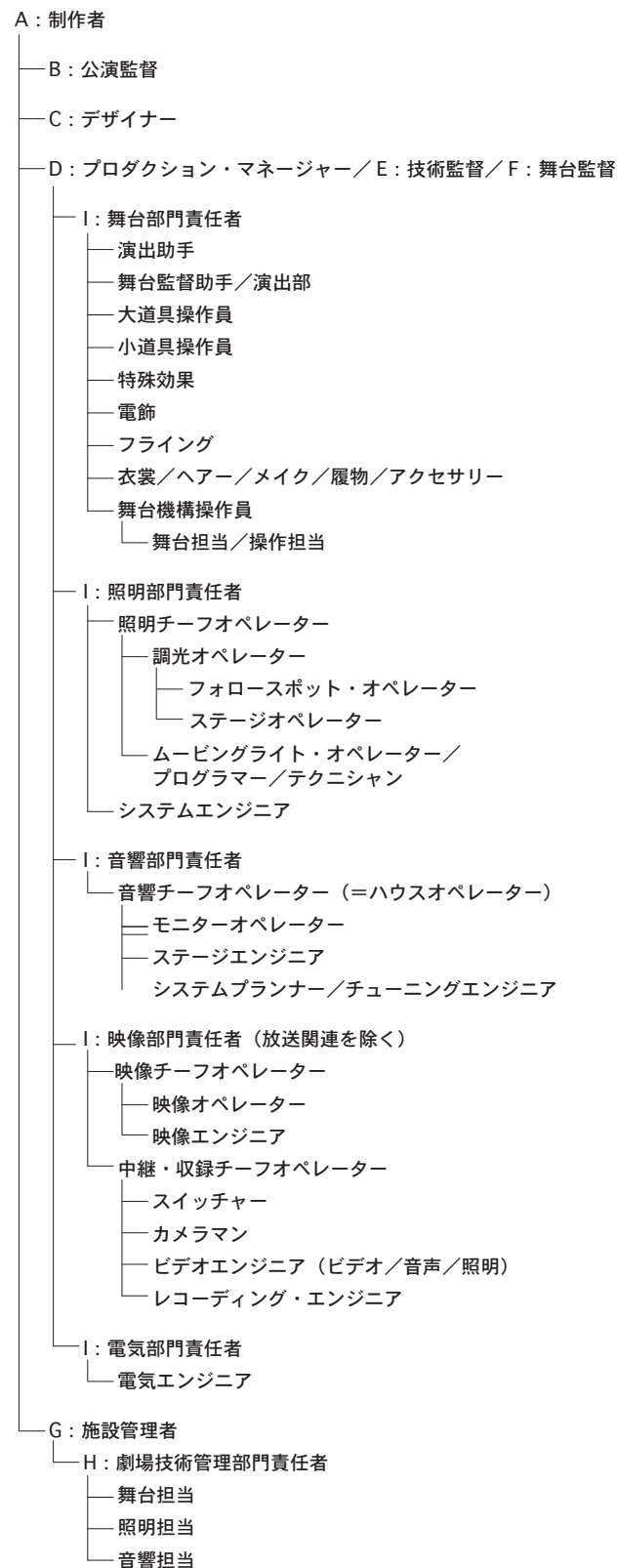
劇場技術管理部門責任者(H)については、施設側の担当者として施設の管理保全についての責任がある。各舞台技術者(I)のそれぞれの専門人材は、公演にあたって劇場のスタッフが配置されている場合、外部からの乗り込みスタッフが入る場合、両者が協働する場合とある。それぞれの専門人材の有無が、運用における安全性、事業において要求されるクオ

リティに影響すると考えられる。専門性として、ハードウェアに関する知識とソフトウェアに関する知識とあるが、双方必要となってくる。安全を担保しながら利用者が表現したいことを引き出せる知識・技術を有した人が「専門人材」と言えるのではないだろうか。舞台監督、技術監督、プロダクション・マネージャーに代表される「ジェネラリスト」と舞台、照明、音響、映像など各分野における技術者としての「スペシャリスト」、それぞれで専門性の定義は異なるが、それぞれの職能・ポジションの中で必要な判断が出来ることが、専門性とも考えられる。

また、照明技術者の場合は、公益社団法人日本照明家協会の「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定制度」による資格が、専門家の資格としてJIS規格やJATET規格に記載されている。一般の家庭で使われる照明器具と違い、演出空間等で使う照明器具は「専門家」が扱うということで「電気用品取締法」の規制から外されている。資格や技能認定のような基準がないと、どこのレベルの人を専門家と呼ぶかは難しいと考えられる。

議論でも示されたように、舞台、音響、照明、映像などの技術者は、それぞれの分野で経験を積んでいくことで、機材の運用スキルが上がり、現場での判断力が磨かれ、専門性を獲得する。その多くは「スペシャリスト」となる。一方、舞台監督など各分野の進行を把握して、全体をマネジメントするスキルを磨いていく人は「ジェネラリスト」となっていく。いずれにしても、公演制作の全体像を知ることが、現場でのコミュニケーションを円滑にする上でも、自身のキャリア形成について考える上でも、重要な要素となるだろう。

図2：公演制作における職能と組織



## 2. キャリア形成の道筋について

### 1) 日本の実演芸術を担う

#### 幅広い人材を集めるために

創造・普及を行う劇場が設立され、専門人材の配置が謳われている中、現場では有能な幅広い人材が必要となってきた。一方、これまで限られた職場、人数で行われていたり、地方公共団体のローテーション人事であったり、専門会社への委託も指定管理者制度で有期契約となるといった課題もあり、採用活動が活発には行われてこなかった状況もある。しかし、幅広い人材を集めるには、若者に魅力がある面白い仕事だということを伝えること、舞台の現場はどのように創られているのか、どういった職能があるのか、キャリアの全貌を示したり、実際の現場にふれてもらうことが、第一歩となると考えられる。

現在、舞台技術者の育成に関するカリキュラムを有する大学や専門学校は全国に少なからず存在しているが、舞台制作現場の慢性的な人手不足が解消されるには至っていない。やはり、就職する前に職場を知ることは重要であり、インターンシップなどを経て、「舞台の現場が好きで、ここで働きたい」という思いが実感できれば、仕事を続けるモチベーションにつながるとも考えられる。雇用・就業の機会を拡大するとともに、双方のマッチング・ロスを回避するためにも、舞台制作現場と教育機関が積極的に連携を取っていくことが求められる。

### 2) インターンシップの実施にあたって

現在、大学との提携で単位取得を前提に行われ

ているインターンシップは、1～2週間程度の短期間のものが多い。舞台技術の現場は、危険と隣り合わせのため、そうした短期での受け入れは現場見学で終わってしまうことも少なくないが、スタッフについて現場を見て歩く(シャドーイング)だけでも、学生にとっては有益だと考えられる。

しかし、受け入れ担当者が実務を行いながら学生に対応することは負担が大きく、定期的な受け入れを実現するには、各現場でインターンシップのためのプログラムを準備することが必要となる。現場の負担を軽減するためには、実務から離れて学生の対応をすることができる人材が求められ、こうしたインストラクターの配置には、劇場技術者のOBを活用することも考えられる。

近年、一部の劇場において独自に無償・有償で中長期のインターンを受け入れる試みも始まっており、未経験者、経験者それぞれがキャリアアップを図る機会として提供されている。関東圏に限らず、全国に複数の受け入れが可能な基幹劇場ができることも望まれる。

また、インターンシップの形態は様々あるが、留意点としては、受け入れ先が就職先になるとは限らないことを、双方が認識しておく必要がある。一方で、よい人材を採用し、技術者として育てていけるように、受け皿を確保することも課題となっている。

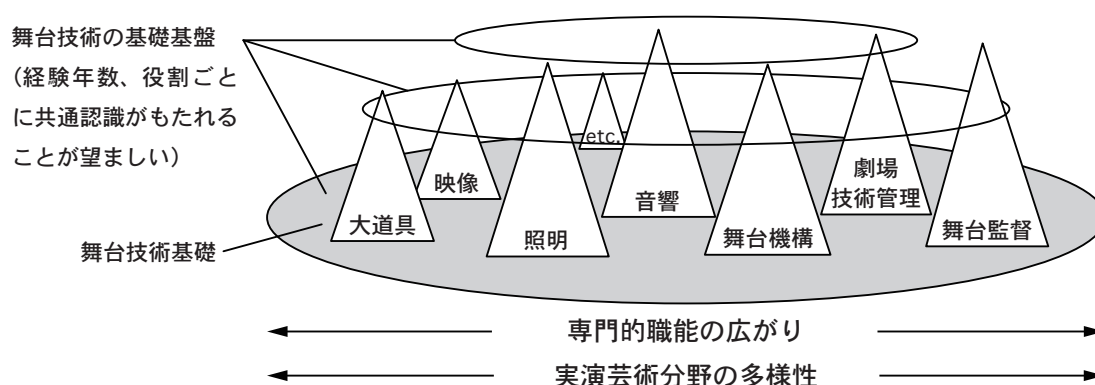
### 3) 体系的なキャリア形成

劇場技術の研修としては、照明や音響の各協会、新人研修や民間認定の一貫となる専門的な研修が実施されたり、公益社団法人全国公立文化施

設協会の各支部で技術研修が行われたりしてきた。また、各劇場や振興財団などが、市民や学生を対象として、舞台への興味を深めたり、アマチュア活動のサポートとなるような研修も実施してきた。これらは、各協会や劇場等が独自に実施してきたもので、全国で共通する基礎的な教材や研修は存在していない。

『舞台技術者の研修教材に関する調査研究報告書』（芸団協／2010）でも提案されているように、舞台技術基礎を共通基盤の入口として舞台に携わるすべての人が学び、そこからそれぞれの専門的な技能認定に進んでいくという構造が明確になると、若者が広い視野で舞台の現場を知り、専門を選択し、就業して深めていくというステップが可能になると考えられる（図3を参照）。また、舞台技術基礎を共通基盤とし、間口を広げることによって、各協会や学校とも連携し、業界全体での幅広い人材へのアプローチ（広報）も可能となる。

図3：舞台技術分野の構成<sup>註4</sup>



註4 舞台技術分野の構成をイメージ図示したものであり、序列等を示すものではない。

### 3. 基礎研修制度のあり方

基準協で多くの関係者の協力のもと議論を重ね、編集した『舞台技術の共通基礎』は、技術者として最低限知っていた方が良い舞台、照明、音響、映像の各分野についてまとめているほか、安全の面から公演制作全体を考える視点、そして劇場の歴史、日本の国や地方公共団体の文化政策の状況についての解説が盛り込まれている。こうした内容は、キャリアの入口で知っていると選択肢を広げることにつながる一方、すでに専門の現場で働いている人も、見識を高めるため、職域を広げるため、管理者になるために必要な知識である。また、公演に関わる制作、プランナー、施設運営に関わる人々も知らなければならない共通基礎である。

従来、全国で共通した舞台技術に関する教材が存在しなかったこともあり、各地に施設はできても、専門人材が必要だという認識も薄く、効果的な研修の実施や人材育成が困難となっていた。地域や国を超えて多様な人が行き交う現場に携わる専門人材は、実演芸術の創造の質を高めるため、公演制作の安全な運用のために必要不可欠となっている。

本調査研究では、神奈川芸術劇場（9月3日、4日）と兵庫県立芸術文化センター（12月4日、5日）において、『舞台技術基礎（見本版）』を教材とした試行講座を実施した。また、新国立劇場で『舞台技術基礎（見本版）』の意見交換会（8月13日）も実施し、教材の活用や研修について教育関係者や実務者と広く意見交換を行い、舞台技術人材育成構想検討委員会において議論を深めた。

#### 1) 劇場、音楽堂等を会場とした研修

全国各地の劇場、音楽堂等で実施可能な研修という前提で、研修案を検討した。期間については、参加者が就業者である場合、日程の確保の問題から2日間が妥当だと考えられ、試行講座も1日目は13:00-17:30、2日目は10:00-16:30という日程で組まれた。対象は、実務初任者（3年目までを想定）および舞台の現場に興味のある人。試行講座では、幅広い意見を求めるため、教育関係者や舞台技術者として経験年数を経ている人へも参加を呼びかけた。教材となる『舞台技術基礎（見本版）』の内容は幅広く、2日間の研修ではすべてを網羅することはできないため、劇場でしかできない舞台、照明、音響の設備・機材を用いた演出効果の体験や安全管理に留意したレクチャーに重点をおき、講義では、自習では理解しづらい文化政策や日本の劇場の歴史を扱った。（プログラムの詳細、意見交換とアンケート結果は、巻末の各記録を参照。）

こうした研修への参加者を増やし、社会的に認知されるものとなるには、ただ実施するだけでなく、修了証を付与することも考えられる。また、本研修はアマチュアの人々も舞台をやる上で最低限知っているべき基礎であり、広く門戸を解放するものであるため、技能や知識を認定するものではない。

#### 劇場、音楽堂等を会場とした研修(案)

対象：実演芸術の創造、公演に関わる幅広い技術領域の基本を学びたい人

例) 実演芸術の技術・制作・プランナー等の専門職を目指す人々、実演芸術の技術・制作・

プランナー等の専門職で他の分野の職域の基礎を学びたい人々、劇場・音楽堂等の文化施設で技術・技術管理の仕事に携わる人々

教材：『舞台技術の共通基礎』を事前に自習

研修：2日間の研修で、現場でしかできない照明、音響機材を用いた表現効果の体験や、安全管理に留意したレクチャーを行う。講義では、自習では理解しづらい文化政策や日本の劇場の歴史について扱う。(必要に応じて指導要領や各講師が共通で使用できる講義資料を作成する。)

## 2) 教材の活用について

教材では、舞台、照明、音響、映像の設備・機器についての基礎的な内容を扱っているため、「専門分野だけをみると優しすぎるため授業では使用できないが、全体を学ぶ自習教材に適している」(専門学校教員)、「全体を網羅しているため、舞台に興味を持った高校生のときなどに手にとれると、進路を考える上で役立つ」(学生)といった意見にみられるように、舞台技術全般を扱うという今までにない視点でつくられている。大学や専門学校における初期過程(座学系)で活用されることで、公演制作における安全な運用および技術等の基礎知識が定着されることが期待される。1)で提示したの研修との関係性や習熟度をはかるようなことについては、別途検討が必要となる。

また、研修会の意見交換会の中では、教材が公立文化施設等の職員として配属された人にも有用であることが認識され、関係者から、ぜひ全国の施設に配布してほしいという意見も述べられた。

## 4. 劇場等演出空間運用基準協議会の役割と関係団体との連携

劇場等演出空間運用基準協議会（基準協）は、2007年に発足し、16の構成団体からなる任意団体として運営されている。舞台関係者が、組織を超えて課題を検討するためのテーブルが、関係者の善意で成り立っている状況だ。これまでの『劇場等演出空間の運用および安全に関するガイドライン』の検討の成果をふまえ、舞台技術の基礎となる教材の検討を積み重ねてきた結果として、2014年4月より教材『舞台技術の共通基礎』の販売が開始される。

研修会の実施については、実施主体が企画し、基準協が講師派遣や教材提供を行うという形が考えられ、教材の販売や広報といった実務があり、研修の修了証の発行機関となるのならば、個人情報管理も発生する。そのため、今後の運営にあたっては、関係団体の間で役割分担を明確にし、組織体制を強化する必要がある。

照明技術者技能認定（民間認定）、舞台機構調整技能士（国家検定）、音響技術者技能認定（民間認定）など各団体が行っている専門的な事業と広報等で連携することで、国内における舞台技術に関する認知度がより高まることが期待される。

## 舞台技術基礎研修 意見交換会 記録

日時 | 2013年8月19日14:00 ~ 16:00

会場 | 新国立劇場オペラパレス ロビー

進行 | 伊藤久幸(公共劇場舞台技術者連絡会／新国立劇場技術部部長)

大和滋(日本芸能実演家団体協議会参与)

参加者数 | 40人

最初に大和氏から、教材(見本)ができるまでの経緯やコンセプト、また、教材を使用した研修の目的などについて説明があった。続いて伊藤氏から、すでに発刊されている報告書や教材からの改訂内容、教材の対象者、章ごとの具体的な内容等について説明が行われた。参加者からの意見は以下の通り。教材の充実に向け参考とされた。

### 【サイズについて】

見本はB5サイズになっているが、教科書として使用する場合、何かを書き込んだりプリントを挟んだりすることも想定されるので、A4サイズの方が望ましいのではないだろうか。(同様意見多数)

### 【構成について】

- ①これを教科書として使用するときのことを考えると、「舞台技術者とは何か」「劇場空間とは何か」等について冒頭で明記されていた方がよいのではないか。
- ②照明や音響などセクションごとに教えてもなかなか理解が深まらないので、一つのシーンに当てはめて、各セクションがどういう風に関係しあっているかを説明したらよいのではないか。
- ③基礎知識に特化しているため、どうしてもハードに関する内容に偏ってしまっている。初心者に対して、この仕事の面白さが伝えられるようなソフト面に関する記述も多少あると、さらに馴染みやすくなるのではないだろうか。
- ④この教材は、自分の専門ではないパート、セクションについての基礎的な知識を得る、あるいは若い技術者がより包括的に劇場のことを知ることを目的としているが、機材の名前や使い方だけでなく、どういう風に考えながらそれらが使用されているか、どういう風に考えながら仕事をしているかということが教科書としては一番重要なところなのではないか。
- ⑤章ごと、項目ごとのバランスをもう一度検討してみて頂ければ…。
- ⑥機材の説明は十分になされていると思うが、教材であることを考えると、導入部分で演目や音、光に関する基礎的な知識に関する記述がもう少し欲しい。
- ⑦いろいろと盛り込んでボリュームが増えるようなら、知識編、技能編の2冊に分けてはいかがか？
- ⑧劇場で舞台技術に従事している何人かの新人にこの見本を読ませたところ、第3編の評判が大変良かった。図説などもう少し具体的な内容を増やして、この第3編のボリュームを上げてみてはいかがだろうか。

### 【具体的な内容について】

- ①平台や箱馬、開き足、所作台などに関する記述もあったほうがよいのではないか。
- ②操作盤の写真は、教材に掲載されているような最先端のものよりも、市民会館の舞台袖に置かれているクラスのもののほうが、学生たちにはなじみがあるのではないか。
- ③尺貫法についての記述もあったほうがよいのではないだろうか。
- ④この教材は「東京発」という印象がある。江戸四座、江戸三座に関する記述はあるが、京都七座、大阪五座が入っていない。また、舞台用語に関しても、上方特有の呼び名や表現があるので、必要に応じてカッコ書きされるとよいのではないか。

- ⑤カラーフィルターの見本帳(p125)は表になっているとありがたい
- ⑥p124の中段、左から2番目の写真のキャプションは「40A-C 型」ではなく「30A-C 型」の間違いではないか？
- ⑦最近主流となりつつあるLED照明についても参考程度に掲載があったほうが良いのではないかと。逆にマシンスポットに関しては東芝の方でも製造中止となっているため、いずれなくなっていくのではないだろうか。
- ⑧携帯電話の抑止装置の使用には資格が必要で、そういったことや空調設備のような表方で配慮が必要になる「舞台技術と劇場管理のはざま」に関する記述もあった方が良いかもしれない。
- ⑨連絡設備については、ワイヤレスマイクの周波数移行の動きがあるため、来年の4月には間に合わない可能性がある。今後載せていく予定があることを匂わせる程度で良いのではないかと。
- ⑩スモークや特効は省いたとのことだが、舞台監督を目指す人もいることを考えると、リスク・アセスメントの観点からも(コラムひとつ程度の分量で構わないので)一応記述があった方が良いのではないかと。
- ⑪ロープやワイヤーの破断荷重についても書かれてはいるが、スペックに対しての安全係数などについて実例が一つでも書かれていると読者も実感がわくのではないかと。
- ⑫p12のテアトル・ファルネーゼの図が入っているが、説明が入っていない。
- ⑬高所作業車や安全帯については、使用の原則についてそれぞれページが割かれていても良いのではないかとと思う。

#### 【ターゲットについて】

- ①何人かの高校生演劇の指導者にこの本を読ませたところ、「誰か解説者がいないと難しい」という意見が多く出た。確かにこれからプロになろうとしている人たち、既にプロになっている人たちには良い教材かもしれないが、町の公民館の職員レベルには少し難しすぎるような気がする。
- ②「舞台技術を学びたい学生」と「キャリア3年目前後の舞台技術者」両方を対象としてしまうと、ポイントがぼやける可能性がある。「教科書」なのか「ハウツー本」なのか、スタンスを明確にした方が良いのではないだろうか。

#### 【その他】

- ①DVDの付録がつくとありがたい。
- ②電子書籍化も検討してほしい。
- ③教材を使った研修方法についても指針があると嬉しい。

# KAAT 神奈川芸術劇場 研修会 記録

日時 | 1 日目——2013 年 9 月 3 日(火) 13:00-17:00

2 日目——2013 年 9 月 4 日(水) 10:00-16:30

会場 | KAAT 神奈川芸術劇場〈ホール〉

講師 | 伊藤久幸(新国立劇場技術部部長／公共劇場舞台技術者連絡会)

岩品武顕(彩の国さいたま芸術劇場／公共劇場舞台技術者連絡会)

井口雄一郎(新国立劇場／公共劇場舞台技術者連絡会)

堀内真人(KAAT 神奈川芸術劇場技術監督／公共劇場舞台技術者連絡会)

大石真一郎(KAAT 神奈川芸術劇場)

本村実(KAAT 神奈川芸術劇場)

草加叔也(空間創造研究所)

対象 | 舞台技術に関心のある方、学生、文化団体、文化施設関係者など

主催 | 文化庁、劇場等演出空間運用基準協議会[基準協]

共催 | KAAT 神奈川芸術劇場

## 研修記録〈1 日目〉

13:00-14:10 研修開始

- 進行(大井優子)

- 研修全体の説明(伊藤久幸)

舞台・ホール概略講習——テキスト第1編について(草加叔也)

(休憩 15分)

14:25-15:20 舞台機構研修——幕仕込み見学(伊藤久幸、堀内真人)

(休憩 15分)

15:35-17:00 照明研修——吊り込み見学等(岩品武顕、堀内真人、大石真一郎)

17:00 研修終了

## 研修開始～座学——劇場の成り立ち等について(13:00-14:10)

[研修開始]

研修は13時に、芸団協の大井氏の進行により開始。

新国立劇場の伊藤氏から今回の研修の解説を約10分ほど行った。解説の要点は以下のような内容である。

- ・今回の研修が実験的な試みであり、いろいろと意見をもらいたいという旨
- ・本書と本研修は舞台技術の基礎知識を網羅したものであるということ
- ・さらに実務的な知識を得たい場合、各団体発行のガイドラインを参照すること

以上の内容に加え、2日間のプログラムの概略を伝え、次のプログラムである舞台・ホールの概要へ移る。



新国立劇場の伊藤氏

[座学——劇場の成り立ち等について]

舞台技術基礎テキストの第1編について、第1、2章の執筆者でもある草下氏がテキストを参照しながら口述での説明を行った。解説は第1-3章まで。

- ・第1章 日本の公立劇場・ホール
- ・第2章 劇場・ホールの歴史と概要
- ・第3章 文化芸術政策と劇場・ホール

50分での講義予定から10分延長し、1時間の講義となった。

### 舞台機構研修(14:25-15:20)

伊藤氏がテキストに記載されている舞台機構の概念についての説明をまず行った。(10分)

- ・舞台機構を、吊物、床、その他、幕類という4つに分けているという点
  - ・電源からそれぞれの機器までどう動くか、概念図を入れているという点
- 簡単に説明した後、場所を舞台中央に移し、舞台機構の動作を実際に見学した。解説は神奈川芸術劇場の堀内氏。まずは吊物機構の解説から行った。(30分)

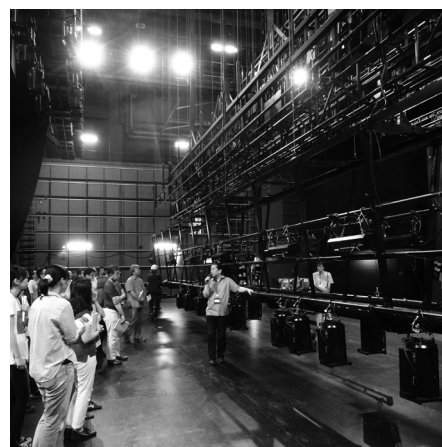
- ・バトンの昇降
  - ワイヤレス操作盤の解説
  - 作業人員配置位置の解説
  - ラダーバトンの解説
- ・平トラスバトンの取り付け
  - 台付け(スリング、シャックル、ワイヤー)の解説
  - 安全率の解説
- ・照明ブリッジの昇降
  - 照明ブリッジの解説
- ・文字幕の昇降
  - 文字幕の解説(用途、サイトラインの確認)
- ・袖幕の昇降
  - 袖幕の解説(用途、サイトラインの確認)
- ・紗幕の昇降
  - 紗幕(英国紗)の解説
- ・紗幕の付け替え
  - 一般的な付け替え方法(定式幕を使う場合)とKAATでの付け替え方法(ハンパーを使う方法)の解説
  - 結び方・安全管理の解説
  - デッドマンシステムの解説
- ・水平幕
  - 水平幕の解説(用途、素材:PVC)
  - 実際に水平幕を染めて見る

次に、床機構の解説を行った。(10分)

- ・床の解説
  - 組み立て床式舞台の解説
  - 奈落の解説



空間創造研究所の草加氏



ブリッジを下降させ、KAAT 堀内氏が解説を行う



紗幕の付け替え

- ・客席電動迫りの昇降
  - 客席迫りがあることでのメリットの解説
  - 安全確認の解説
  - 迫り機構の解説(スパイラルリフト、ガイド)

機構動作見学が終わった後、伊藤氏に引き継ぎ、そのまま舞台上でテキストを見ながら、今回見学した以下の機構類の掲載頁を確認を行った。(5分)

- ・スリング、ロープ
- ・照明バトン、ブリッジ
- ・緞帳

→緞帳の動作を見学していなかったため、再度機構見学へと移る。

KAATの緞帳は、緞帳とオペラカーテンの中間的なもので、その解説がなされた。

- ・黒幕類(文字幕、袖幕)
- ・白幕類(ホリゾン幕)
- ・その他の幕類(紗幕)
- ・デッドマンシステム

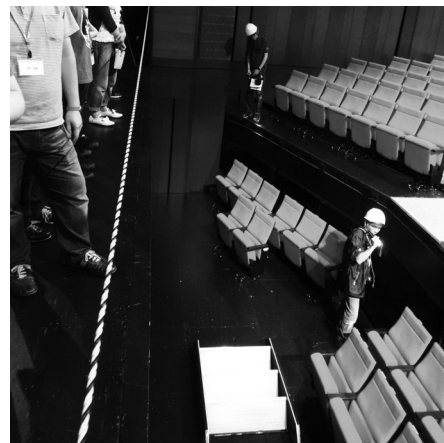
## 照明研修——吊り込み見学等～研修終了<15:45-17:00>

[照明研修——吊り込み見学等]

伊藤氏から電源から照明設備までの概念図の解説があり、彩の国さいたま芸術劇場の岩品氏の座学へと移る。別途用意した平面図、チャンネル表を用い、図面の読み方、チャンネルの解説した。(10分)

再度、堀内氏にマイクを渡し、舞台上での照明設備見学を行った。2日目に予定されている模擬ステージ用の照明を吊り込む。(40分)

- ・照明ブリッジの下降
  - 調光器の解説(制御設備から照明設備への接続)
- ・スポットライト(エリプソイダルスポットライト)の取付け
  - 先に配った平面図通りの回路に接続
    - ハンガー、安全ワイヤーの解説
    - エリプソイダルスポットライトの解説
    - GOBOの解説、セッティング
      - テキストのGOBO掲載頁を確認した。
- ・点灯チェック
  - 平面図に書かれている番号と照らし合わせ、点灯しているライトの番号を確認しながら点灯チェックを行った。
- ・フォーカス(下にある状態で・2ブリッジの照明)
  - ブリッジを下に降ろしたまま、照明をフォーカスする模擬作業を行った。
    - 安全帯の解説
- ・照明ブリッジの上昇
- ・フォーカス(上にある状態で・2ブリッジの照明)
  - ブリッジを上げて、スポットライトの調整、GOBOを付けたライトの調整を行った。



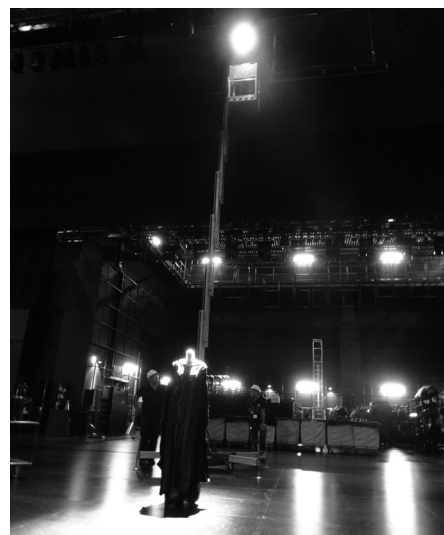
客席迫りを下降させる



休憩中に劇場内を見学する参加者



照明ブリッジ上からフォーカスをする



高所作業車を使いフォーカスをする

- ・高所作業車を利用したPARライトのフォーカス(3ブリッジの照明)
  - 高所作業車の安全事項
  - PARライトの解説
- ・凸レンズのフォーカス(1ブリッジの照明)
  - 凸レンズ、フレネルレンズの解説

舞台上部のライト作業見学を終え、客席側のライトおよび、未解説の舞台上照明、関連設備の解説へ移る。解説は該当の設備を点灯、あるいは堀内氏の持つ懐中電灯で照らしながら行われた。以下のものを順に解説した。(15分)

- ・フロントサイドライト
- ・シーリングライト(1シーリング、2シーリング)
- ・フォロースポット室
- ・バルコニーバトン
- ・調光室、投影室(投影室)
- ・リアアッパーホリゾントライト
- ・ギャラリー
- ・サイドラダー、サイドライトタワー (常設していないため口頭での解説のみ)
- ・トーマンターライト
- ・ムービングライト(ソースフォーレボリューション)
- ・HMI (4kg、2.5kg)
- ・エリプソイダルスポットライト(5℃、10℃)

見学を終えた後、舞台横の座学スペースへ戻り、岩品氏からテキストを見ながら、今回見学した以下の機器類の掲載頁を確認を行った。(20分)

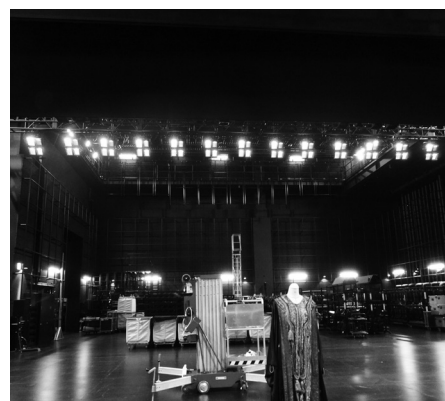
- ・Ⅲ. 舞台照明機器(p.104-115)の解説
- ・Ⅴ. 光源の解説(p.126)

[研修終了]

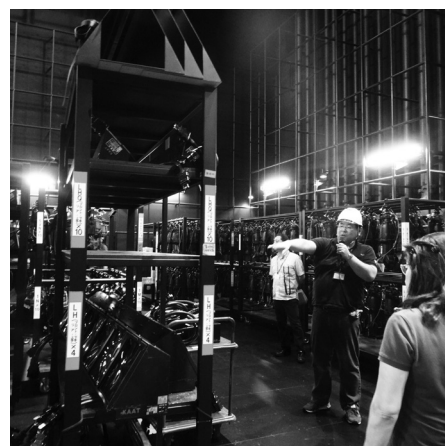
伊藤氏から明日のプログラムの解説があり、1日目のプログラムを終えた。



客席のライトを、懐中電灯で照らしながら解説



アッパーホリゾントライトを点灯



器具解説をする KAAT 大石氏



会場



彩の国さいたま芸術劇場の岩品氏

## 研修記録〈2日目〉

10:00-11:20 研修開始

- 防災に関して(堀内真人)
- 研修2日目のプログラム説明(伊藤久幸)
- 音響研修——音響仕込み見学(堀内真人、本村実)
- 連絡設備研修(堀内真人)
- 映像講習(井口雄一郎)

(休憩 15分)

11:35-12:10 舞台実演(堀内真人、大石真一郎、本村実)

(お昼休憩 1時間)

13:10-14:40 バックステージツアー (堀内真人)

(休憩 20分)

15:00-16:30 座学——連絡設備、安全について、ガイドライン、付録  
意見交換会

16:30 終了

### 研修開始～音響研修〈10:00-11:20〉

[研修開始]

研修2日目は10時に開始。

まずKAATの堀内氏から、本来であれば1日目に解説しておくべきだったという説明が入った上で、舞台上にいる際に災害が起こった際の避難経路、劇場・ホールの非常時における安全管理の心得が簡単に話された。

その後、伊藤氏から研修2日目のプログラム説明があり、研修が開始した。(5分)

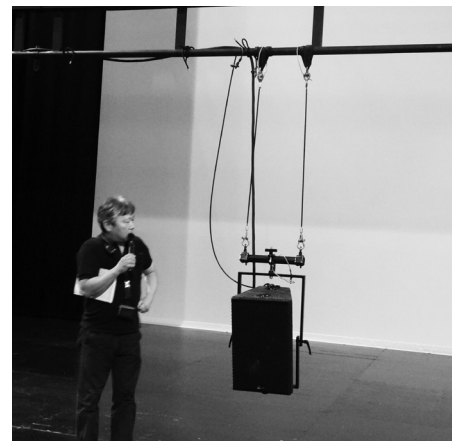
[音響研修——音響仕込み見学]

伊藤氏より、プログラム説明から続いて、テキストに掲載されている電源から音響機器までの概念図の説明が簡単に行われ、堀内氏にマイクが渡され舞台上の見学に移った。まずは音響機器の吊り込み等を見学した。(40分)

- ・リギングされたパワードスピーカーの下降
  - 吊り方の解説(スリング、安全ワイヤー等)
  - パワードスピーカーの解説
  - スタンド型の仮設スピーカーの解説
- ・プロセニアムタワー内の見学
  - サブウーファー、ハイボックス3台のラインアレイスタッキングの解説
  - プロセニアムの解説(KAATのものは可動式となっている)
  - スタッキングの場合の安全設備
- ・プロセニアムスピーカーの解説(ラインアレイ接続)

物理的なスピーカーの仕込み見学を終えた後、スピーカーを以下の順で鳴らし、鳴り方の違いを客席に座り聴き比べる。それぞれのスピーカーがどの人を対象に、こういった時に使用するかを併せて解説した。(20分)

- ・カラムスピーカー (高い位置と低い位置の聴き比べ、サブウーファー ON /



リギングスピーカーを解説する KAAT 本村氏



プロセニアムスピーカーを下ろし、ラインアレイを間近に見る

OFF / ONLYの聴き比べ)

- ・プロセニアムスピーカー
- ・バルコニー下補助スピーカー
- ・ウォールスピーカー（上手側、下手側）  
→バルコニーレールに付いているスピーカーの向きによって、聞かせたい人が異なることが解説された。
- ・シーリングスピーカー（上手側、下手側）
- ・舞台上パワードスピーカー
- ・ホリゾント裏スピーカー
- ・手動でチューニングを行い、チューニング前後の鳴り方の違いを聴き比べる  
→併せてサウンドチェックの解説を行う。
  1. 回線チェック
  2. チューニング
  3. マイクから出た音のチューニング
  4. その後演者が参加し、さらに調整を行ってゆく
- ・プロセニアムスピーカーの下降  
→聴き比べを終え、プロセニアムスピーカーをおろして、ラインアレイの見学、解説が行われた。

#### [連絡設備研修]

音響設備の研修を終え、連絡設備の解説が簡単に行われた。(5分)

- ・正面カメラ(通常のカメラ、暗視カメラ)
- ・舞台監督卓
  - インカムシステムの親機
  - ワイヤレスインカム(クリアカム)
  - モニタ(舞台横、正面)
  - 楽屋用連絡機材
  - CUE ランプ
- ・ガナリ、トークバック

#### [音響研修——座学]

舞台横の座学スペースへ戻り、テキストを見ながら、今回見学した以下の機器類の掲載頁を確認を行った。(5分)

- ・劇場内スピーカーの位置の解説(p.130-135)
- ・スピーカーのスタッキングの解説(p.137)
- ・ワイヤレスマイクの周波数の解説(p.157)

#### [映像講習]

伊藤氏より簡単な導入解説があり、テキスト執筆者である新国立劇場の井口氏より講習が行われた。(15分)

- ・映像機器の特性(p.172)
- ・表示機器の解説(p.173-178)

#### 舞台実演(11:35-12:10)



新国立劇場の井口氏

1日目、2日目の研修で仕込んだ、舞台機構、照明、音響の機器を使用した簡単な舞台上演(6分程)を行った。(35分)

- ・通しで上演を行う
- ・照明の解説
  - トップライト
  - バックライト
  - ステージサイドライト(下手側、上手側)
  - エリプソイダルスポットライト(GOBOを装着したもの)
    - 文字幕、袖幕を飛ばし、客席から照明位置を見えるようにして、再度解説を行った。
- ・幕の解説
  - 紗幕
    - 照明の当て方を変え、紗幕の効果を確認。
  - ホリゾン幕
    - ロワーのRGBYを照らし変えて、効果を確認。アッパーは青、水色、緑、赤が入っており、これを照らし変えて、効果を確認した。
- ・音響の解説
  - シーリング→カラム→ウォール→カラムと、使用スピーカーを変え、聴き比べる
  - ホリゾン裏のスピーカーを流しながら、大黒幕を上げて聴き比べる
  - 舞台上リギングスピーカーのイコライザーをON / OFF し、ホリゾン裏スピーカーとのコンビネーションを聴き比べる
- ・再度通しで上演



実演の様子



スノコ上



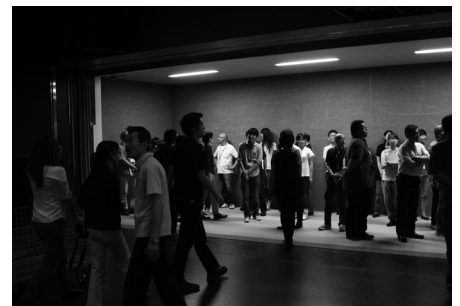
奈落

### バックステージツアー 〈13:10-14:40〉

昼食をはさみ、KAATのバックステージを見学した。

見学の際には高いところも移動するため無駄なものは持たず、人数も多いため個人行動はせず、落ち着いて見学をするよう注意があり、以下の順で見学を行った。

- ・スノコ
- ・3ギャラリー (ウィンチスペース)
- ・2ギャラリー (テクニカルギャラリー)
- ・客席バトン上
- ・第1シーリング室
- ・第2シーリング室
- ・フォロースポット室
- ・1ギャラリー
- ・楽器庫
- ・奈落
- ・水場、ヘルメット・安全帯置き場、スタッフ室(2部屋)、上演中の機構卓スペース
- ・搬入リフト
- ・荷捌き
- ・ワークショップ(木工・金工設備)



搬入リフトを使い、荷捌きへ降りる



荷捌き、ワークショップ

- ・楽屋
- ・ホワイエ
- ・調光室
- ・投影室
- ・多目的室
- ・音声制御室
- ・調光卓、音声卓(今回は模擬上演用に客席後方に出していたため)

ひと通り見学をした後、舞台横座学スペースへ戻り、劇場・ホールに必要な諸室に関する解説の掲載箇所(p.17-20)を伊藤氏が簡単に説明を行った。

## 座学——連絡設備、安全について、ガイドライン、付録～意見交換会 〈15:00-16:30〉

[座学——連絡設備、安全について、ガイドライン、付録]

伊藤氏が講師となり、これまでに触れていなかったテキスト内容について、おおまかな解説を行った。主に、ガイドラインに関する解説に重点を置いて行われた。

(1時間)

- ・第2編第5章 連絡設備
- ・第2編第6章 電気の安全事項
- ・第2編第7章 劇場技術管理
- ・第1編第4章 公演制作の組織と安全
- ・第3編 実演芸術の制作過程の実際

[意見交換会]

2日間の研修、あるいはテキストに関する感想、意見を参加者から募った。学生、専門家、制作者、専門家以外など、様々な属性からの意見が上がった。内容は次項参照のこと。(30分)

[研修終了]

16:30 に、伊藤氏の挨拶をもって終了した。



学生からの意見



専門家からの意見



専門家以外からの意見



次回開催者からの意見

### 意見交換会

#### 〈学生〉

- ・研修会は、現場の生々しさがあるのがメリットだと感じた
- ・座学と客席の中間の貴重な体験ができた
- ・劇場で設備や機材を近くで見れたのは、実感があってよかった
- ・劇場のツアーは、学校にない機材があって楽しかった
- ・座学は学校でも教科書があるので、復習になった

#### 〈舞台技術 経験者〉

##### ○教材について

- ・教科書が辞典になるのはもったいないので、活用法を考えてほしい
- ・4つのセクションが1つのテキストにまとめられたのは画期的
- ・舞台機構や照明の大目的の記述があるとよいのでは
- ・大道具の記述がほしい
- ・技術専門の学生にはこの教材は物足りない

##### ○研修について

- ・見学ができた KAAT 以外の会場との比較があると、より世界が広がるのではないかな
- ・実地を充実させてほしい

##### ○研修の対象者について

- ・バックステージツアーで技術スタッフと制作スタッフとの壁を感じた
- ・こういった研修で学校関係、地域スタッフ、劇場管理などの温度差を埋められるといい
- ・フロントスタッフにもこういう研修に参加してもらえるとよいのでは
- ・受付担当者が知っているべきことはどこまでか、10人以下の会館ではみんなが共有すべき。貸館中心、稼働率が20%、30%のところと高いところとは違う
- ・直営の会館、受付、管理職の人に読んでもらいたい
- ・アリオスでは、館の全員で共有したい。研修としては、短い時間でどうするか、また検討してほしい。講師は1人では大変だが、機構と照明、音響と映像の2人を講師とするとよいのでは。実演にスタッフが必要。参加者が体験するところがあってもよいのでは

#### 〈技術系以外の参加者〉

- ・劇場にまつわる視点がこんなにあるとは思っていなかったのが驚いた。教科書の頭から後ろまで一通りツアーできてより立体的になった。表からは見えなかった、裏でどう動いているかがわかった。セッティングだけでも、全体像を体感できてよかった
- ・これまで企画をしてきても、舞台の現場に関わる人たちの意識の違いを感じていた。安全や時間のかけ方がわからなかったが、この研修で理解できた。素人だけど、人を集める企画をする人に知ってもらいたいし、そうすると温度差が埋まるのでは

### アンケート集計

実施：2012年9月3日(火)、4日(水)実施

回答数：20枚／参加者総数52名

※主催者、基準協関係者、KAATスタッフ除く

アンケート回答者属性：

【学生】 4名

【経験年数1～3年】 5名（舞台1名、照明1名、音響2名、機材メーカー2名）

【経験年数4年以上】 9名（舞台2名、照明2名、音響3名、制作2名、管理運営1名、不明1名）

#### ○劇場の成り立ち等について(1日目座学)

【学生】

- ・とても勉強になりました。
- ・歴史の流れは面白かったです。KAATのような柔軟な劇場、ほかのプロフェッショナルな劇場、市民会館など、それぞれのコンセプト、設備、建築の違いを聞きたかった。

【経験年数1～3年】

- ・過去に遡ったことで、それぞれの設備の存在意義などがよく分かった。
- ・もう少し時間をとって話を聞けると良かったです。

【経験年数4年以上】

- ・時間が少な過ぎたが、その時間内でだいたい説明がなされて良かった。
- ・時間が足りない中での説明で内容をこなすのが大変だと思いました。テキスト中を戻ったりしながらの講義だったので、もう少し整理をしないとついていけない

印象を受けました。

- ・歴史や成り立ちを知ることは必要だと思いますが、読めばわかることなので、限られた時間の中であれば、今を取り巻く状況に重点をおいて頂けたらありがたかったです。
- ・大変興味深かった。劇場で働いているのに今まで知らなかったことも多く、必要な知識であると感じた。
- ・歴史があり、現在の日本の現状がなぜその状態にあるのかをつかむのは非常に大切だと思った。また、技術研修ではあるが、劇場を取り巻く社会的状況、課題、何のために(劇場が)存在するのかという意義を確認する上でも、もう少し時間を割いた方が良かったと思った。

#### ○幕仕込みについて

##### 【学生】

- ・実際の作業を見学させていただき、とても勉強になりました。
- ・幕の吊り替えを実際に見ることができてよかった。吊り替えの手間を知るために、実際に体験してみたかった。

##### 【経験年数1～3年】

- ・キャストのついた台に乗せて紗幕を移動させるのははじめて見た。これならはみ出して汚れる心配もなく、腰も痛めずに作業ができて効率も良さそうだと感じた。
- ・実際にどのように幕が仕込まれているか、また工夫されているかが分かり勉強になった。

##### 【経験年数4年以上】

- ・幕の仕込みは一連の動作を最初から行うのが良いと思う。はじめて携わる方はやはり最初からそこに吊ってあるものだと思いますが、幕を出してパイプを入れるまで行うのが良いと思いました。
- ・種類や効果など、普段はなかなか見られないので良かったです。吊り替えはしなくてもよいかと思いました。
- ・KAAT独自の方法での吊り方を見せてもらって役だった。
- ・(照明、音響も含めて)スタッフ間で連絡を取り合っていた際の専門用語についての解説もあると良かった。

#### ○照明吊り込みについて

##### 【学生】

- ・(機材に)実際に触れて吊り込んでみたかった。

##### 【経験年数1～3年】

- ・取り外し式のブリッジははじめて見たが、使いたい

場所へどこでも移動して使えるのはかなり便利だと思う。実際にブリッジに乗れたりしたら良かった。

- ・ライトブリッジからのシューティングをはじめて見て、使われ方のイメージが持てた。
- ・実際の作業については、自分たちも機材に触れることができれば良かったです。

##### 【経験年数4年以上】

- ・照明の吊り込みは、吊り込むという作業を主目的にしてあるならば充分だと思う。灯体の説明もあったが、現物が目前にあった方が良かったと思った。
- ・バトン、ブリッジなどの役割を教えていただいたので良かったです。時間があるならば、吊り込み体験くらいしても良いのかと思いました。
- ・バトン、ライトブリッジの作業時安全確認が大切だと感じました。
- ・(音響なども含めて)実演の仕込みを見学したかったです。
- ・安全管理や照明機器について、知らないことも多かったので大変勉強になりました。シュートの難しさも感じ取れました。
- ・照明担当以外の初心者仕込み図との対応が理解できたのだろうか疑問です。

#### ○音響仕込みについて

##### 【学生】

- ・卓を操作してみたかった。

##### 【経験年数1～3年】

- ・吊りのスピーカーを間近で見られたのは結構貴重だった。それぞれのスピーカーひとつひとつで音を聞かせてもらったので用途等が分かりやすかった。
  - ・(専門外で)あまり馴染みがないので、調整の内容等について詳しい説明が欲しかった。

##### 【経験年数4年以上】

- ・チューニング前と後の違いは初めての方には少し難しいと思った。照明と同様、機材が実際に見られると良かった。イコライザーに触るだけでもかなり違うと思う。
- ・マイクオペレート(マイクのセッティングの仕方)が学べると良いのでは？

#### ○実演の見学について

##### 【学生】

- ・迫力があり感動しました。
- ・分かりやすかった。仕込みに関わってみたかった。

- ・スピーカーを体験できたことがよかった。
- ・プランニングが分かりやすく解説されていた。

#### 【経験年数1～3年】

- ・舞台、音響、照明それぞれ間近で見たものを観客として見ることで、より目的・効果をよく感じられた。
- ・解説を交えていただいたので、非常に分かりやすかった。
- ・5分のショーの中にとっても多くの技術的な要素が詰まっていることを解説していただき、大変勉強になった。

#### 【経験年数4年以上】

- ・大変美しかったです。
- ・解説の後にもう一度見られると良いかと思いました。
- ・バックステージツアーの後のほうが良かったのかもしれないと感じました。
- ・実演時の舞台監督がどのような指示を出して進行していたのかも知れたかった。

#### ○バックステージツアーについて

##### 【学生】

- ・良かったです。実際の搬入を見てみたかった。
- ・搬入と備品倉庫についてももっと話を聞きたかった。
- ・普段見られないところまで見学させていただき、とても勉強になりました。
- ・実際の現場で見て学ぶことで、安全管理の重要性を実感できた。

#### 【経験年数1～3年】

- ・普段見られない「すのこ」等を見られたのはかなり勉強になった。仕組みが分かりやすかった。
- ・普段見られないところが見られて良かった。
- ・他館のステージ裏を見られる機会もあまりないので、見聞を広げられて良かった。

#### 【経験年数4年以上】

- ・普通の劇場にはない、衣装作成の部屋や録音室も見られると良かった。
- ・2班くらいに分かれるとスムーズなのかなと思いました。
- ・KAATオリジナルのものが多く、興味深い点も多かったが、一般的ではないと感じた。
- ・大変参考になりました。

#### ○安全について(2日目座学)

##### 【学生】

- ・地震の話があつてよかったが、3.11のような時どのようなことが起きたか詳しく知りたかった。

- ・地震に対する備えについて、もう少し深い話を聞きたかった。
- ・座学よりは、例えばバックステージツアーと組み合わせて、この機構をこう使うと危ないといったように見学や体験ができると、生々しさが増してより真剣に考えられると思いました。

#### 【経験年数1～3年】

- ・座学だったが、安全に関しては各セクションそれぞれ特に深く関係があることだと思うので、これも実際に体験できたらより良かった。

#### 【経験年数4年以上】

- ・もう少し時間が欲しいと思った。これは、初心者・ベテランの隔てなく重要な項目だと思います。
- ・1日目、またはバックステージツアー前にやった方が良かったと思いました。

#### ○その他・講座全般について

#### 【経験年数1～3年】

- ・私は何の知識もなくこの世界に入ってきて、現場で初めて「上手・下手」を覚えるという感じだったので、今回の研修はもっと早くに受けたかったと思いました。本当の現場では空気もピリピリしていて、分かっていて当たり前と思われていることもわからないままになってしまうことが多いです。やりながら覚えていくというのも大切だと思いますが、安全にかかわることに関して、このようにいろいろなセクションのことを教えてもらうことは大切だと思います。
- ・(配布資料として) KAATの平面図、断面図があれば良かった。

#### ○配布された教材[見本版]について

##### 【学生】

- ・カラーの写真。仕込み図。
- ・照明に関しては、今後のLEDへの移行に伴う設備の変化について記載されたほうが良いのではないかな。
- ・P15～20の劇場の構成について、それぞれの図があると分かりやすいと思いました。
- ・このテキストは、どちらかというと舞台スタッフやデザイナーを目指す高校生や大学1年生などのための「入門的」な教科書なので、受験前に読みたかった。

#### 【経験年数1～3年】

- ・分かりやすく良いと思います。
- ・第3編「1. 企画からバラシまで」の項目について、もう

少し挿絵等があるとイメージがつくと思った。

- ・全体的にまんべんなくまとめられており、私のような初心者としては大変勉強になる教材だと感じた。

【経験年数4年以上】

- ・受講される人に配布する教材なのか、講師の方にここを押さえて欲しいという教材なのか明確になっていると良いと思う。
- ・技術スタッフではない、制作スタッフや役所の担当課の人たちが最低限この程度のことを知っていることが必要、というラインを示していただけると良いかと思いました。
- ・研修は仕込み中の映像があると(仕込みを)見たことがない人にはイメージしやすいのかと思いました。
- ・毎年、各地で数回劇場を使用した研修会を開催してください。
- ・(8/19の)意見交換会の時もありましたが、照明とは何か、音響とは何かが書かれていると良いと感じました。
- ・目次にページ数が書いてあると便利です。全体的に実例や、実際の現場の写真などを載せ、さらに誰かの体験談なども加えればもっと実践向きになると思います。
- ・照明仕込みの際に配布されたA3プリントの図面のような図が入ると良いと思う。

## 兵庫県立芸術文化センター 研修会 記録

日時 | 1日目——2013年12月4日(水) 13:00-17:30

2日目——2013年12月5日(木) 10:00-16:30

会場 | 兵庫県立芸術文化センター〈阪急 中ホール〉

講師 | 関谷潔司(兵庫県立芸術文化センター舞台技術部長／公共劇場舞台技術者連絡会)

市来邦比古(劇場建築・管理運営アドバイザー／公共劇場舞台技術者連絡会)

宮川博喜(兵庫県立芸術文化センター／公共劇場舞台技術者連絡会)

金子彰宏(兵庫県立芸術文化センター／公共劇場舞台技術者連絡会)

井口雄一郎(新国立劇場／公共劇場舞台技術者連絡会)

伊藤久幸(新国立劇場技術部部長／公共劇場舞台技術者連絡会)

草加叔也(空間創造研究所)

対象 | 舞台技術に関心のある方、学生、文化団体、文化施設関係者など

主催 | 文化庁、劇場等演出空間運用基準協議会[基準協]

共催 | 兵庫県立芸術文化センター

### 研修記録〈1日目〉

13:00-14:20 研修開始

-進行(大井優子)

-挨拶(藤村順一／兵庫県立芸術文化センター副館長)

-研修全体の説明(市来邦比古)

座学——劇場の成り立ち等について(草加叔也)

(休憩 10分)

14:30-14:55 座学——演劇作品をつくる、企画・稽古場・公演準備まで(市来邦比古)

(移動 5分)

15:00-16:20 舞台演出見学1(関谷潔司、金子彰宏、宮川博喜、井口雄一郎)

(休憩 10分)

16:30-17:10 舞台演出見学2(関谷潔司、金子彰宏、宮川博喜、井口雄一郎)

17:00 研修終了



兵庫県立芸術文化センター副館長の藤村氏



今回のコーディネーターを務める市来氏

#### 研修開始～座学——劇場の成り立ち等について〈13:00-14:10〉

[研修開始]

研修は13時に、兵庫県立芸術文化センターリハ室にて、芸団協の大井氏の進行により開始。

兵庫県立芸術文化センター副館長の藤村氏より開会の挨拶を頂く。(5分)

次に公共劇場舞台技術者連絡会で今回のコーディネーターを務める市来氏から、今回の研修の解説を行った。解説の要点は以下のような内容である。(5分)

- ・安全な作業を行うために、舞台技術者に横断的な知識を身につけてもらいた

ということ

- ・舞台技術者のみならず、舞台管理者にも舞台について知ってもらいたいということ
- ・今回の研修を元に、テキストをより良いものに更新すること

以上の内容に加え、2日間のプログラムの概略を伝え、次のプログラムである舞台・ホールの概要へ移る。

[座学——劇場の成り立ち等について]

舞台技術基礎テキストの第1編について、第1、2章の執筆者でもある草下氏がテキストを参照しながら、「舞台技術研修 in 神奈川」の時と同じように、口述での説明を行った。解説は第1-3章まで。(1時間10分)

- ・第1章 日本の公立劇場・ホール
- ・第2章 劇場・ホールの歴史と概要
- ・第3章 文化芸術政策と劇場・ホール



空間創造研究所の草加氏

**座学——演劇作品をつくる、企画・稽古場・公演準備まで(市来邦比古)**

**〈14:30-14:55〉**

市来氏が講師となり、第3編について座学を行った。今回の研修は、舞台演出の観覧がメインプログラムとなっているため、前は2日目の最後の時間に行った座学を、初日のプログラムとした。(25分)

- ・第3編 実演芸術の制作過程の実際

**舞台演出見学1——本読み・舞台稽古〈15:00-16:20〉**

座学終了後、阪急中ホールへ移動、進行を兵庫県立芸術文化センターの関谷氏に代わり、見学研修を始めた。今回は戯曲『シラノ・ド・ベルジュラック』の第4・5幕を元に、本読み・舞台稽古・通し稽古を行い、参加者はこれを見学する。兵庫芸術文化センターの関谷氏が見学研修の流れを解説。氏が今回の舞台技術監督を務める(5分)

今回の研修のために参加していただいた、演出家・役者にマイクを渡し、模擬舞台演出が行われた。演出の内容は以下の通りである。

[本読み](30分)

- ・実演

舞台上に役者2名が、演出卓に演出家が座り、本読みを行う。演出家がト書きを読みつつ、演出をつけながら進めた。

- ・補足解説——関谷

本読みの工程について、第3編の項目と紐付けをしながら補足解説を行う。

- ・演出解説——藤井／演出家

今回の舞台の演出意図を解説。セリフのカット等の台本修正も行う。

この間に舞台技術者・役者が準備を行った。

[舞台稽古——幕開き](45分)



進行を務める兵庫芸術文化センターの関谷氏



本読みの様子

・補足解説——金子／音響

最初に今回の音響プランナーの金子氏からの舞台稽古の進め方について解説を行った。

- 幕開き、転換の部分は特に演出が重要な箇所であるということ
- 演出に正解はなく、演出家の演出意図に基づいて、繰り返し、決めてゆくこと

・補足解説——関谷

実際には役者へ舞台のオリエンテーションを行ってから舞台稽古へ移る点を補足。紗幕の降下位置のみをオリエンテーションし、舞台稽古へ移る。

・実演

まずは幕開きの演出から始まる。関谷氏からの提案を基に、実際に演出し、演出家とともに演出を決めてゆく。途中、映像機材のトラブルにより、演出順を変更しながら進めた。

- 1-1. 紗幕アリ／音先行
- 1-2. 紗幕アリ／音・明かり同時
- 1-3. 音先行
- 1-4. 音・明かり同時
- 1-5. 紗幕アリ／音先行／映像アリ[A]
- 1-6. 音先行／映像アリ[B]
- 1-7. 音先行／映像アリ[C]

・技術解説——金子／音響

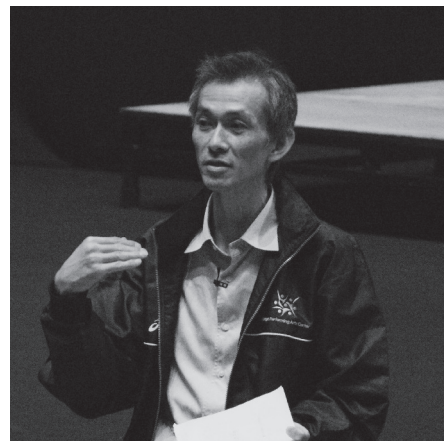
音響先行にすることで期待感を煽っている、舞台のテーマやシーンに対する音の選定理由、鳴らすスピーカー位置を変えることでプロセニアムのつくる世界観を活かすなどを解説。

・技術解説——宮川／照明

紗幕を利用した場合は戦場の煙をイメージしている、背景幕に当てた照明で城壁を想起させるなどを解説。

・技術解説——井口／映像

具体的なイメージと抽象的なイメージの2つを用意したこと、紗幕に当てた場合に抽象度が増すこと、背景幕に当てるとくっきりとした映像を見せられること、ビデオプロジェクターのフロント打ち・リア打ちの違いなどを解説。



音響解説を行う金子氏



舞台稽古（幕開き）の様子



照明解説を行う宮川氏



映像解説を行う井口氏

## 舞台演出見学2——舞台稽古〈16:30-17:10〉

〔舞台稽古——幕開きから転換まで〕

前のプログラムでこぼれた緞帳を使用した幕開きを行い、第4幕中盤まで進行。途中の演出方法などについて解説を行う。

- 1-8. 緞帳アリ／音・明かり同時

・技術解説——金子／音響

演出家からのリクエストに対して、音響プランナーから提案した内容（演出家のリクエストした鼓動音を、幕開きに使用した戦場の太鼓音に喩えて使用）を解説。

・技術解説——宮川／照明

音響プランナーのつくった音に合わせる形で照明プランナーから提案した内容(鼓動音に模した太鼓の音に合わせ、舞台上に落としたサスを動かし、照明と音をリンクさせる)を解説。

・実演

演出家が幕開きの演出を決め(今回は1-5を選択)、次の転換まで舞台稽古を進める。転換段取りを確認するため、一度作業灯を着けた上で作業を行う。その後、幕開きの時と同様に、プランナーの用意した演出を実際に行い、演出家の意図に沿う演出を決めてゆく。完全暗転時の作業についての安全喚起も行った。

2-0. 作業灯アリ／音A

2-1. 音B／鐘の音・明かり同時

・技術解説——金子／音響

暗転中の曲は2パターン用意して、演出家へ提案を行っている旨を解説。

・技術解説——宮川／照明

音の調子が変わる点で暗転から開けたいので転換の段取りをもう少しスムーズに、といった舞台上スタッフへのリクエストなどを伝達。

[研修終了]

関谷氏から明日のプログラムの解説があり、1日目のプログラムを終えた。



座学会場

## 研修記録〈2日目〉

10:00-11:35 研修開始

-研修2日目のプログラム説明(関谷潔司)

-1日目の研修後に出た質疑に対する回答(金子彰宏、宮川博喜、井口雄一郎)

仕込み見学

舞台演出見学

(休憩 5分)

11:40-12:30 舞台実演見学(関谷潔司、金子彰宏、宮川博喜、井口雄一郎)

(お昼休憩 1時間)

13:30-14:30 バックステージツアー

(休憩 10分)

14:40-15:20 座学——ガイドライン、安全について(市来邦比古)

(休憩 10分)

15:30-16:30 意見交換会(市来邦比古、関谷潔司、伊藤久幸、白神久吉)

16:30 終了

### 研修開始～仕込み見学～実演演出見学〈10:00-11:35〉

[研修開始]

研修2日目は10時に開始。

兵庫県立芸術文化センターの関谷氏に代わり、2日目のプログラムの説明と、1日目の研修後に出た質問に対する回答が行われた。(10分)

Q. 卓の位置がすべて客席に出ているが、実際の運用時はどのようにするのか？

A. 〈金子／音響〉 舞台稽古の最初は卓を出し、音ができたら音響室でオペレーションすることが多い。デザイナーとオペレーターが分業している場合は最初から音響室で操作することもある。巡回公演など舞台稽古が十分でない場合は客席に出すことがほとんど。

〈宮川／照明〉 基本的には音響と同じ。照明室のガラスや、室内で手元を明るくし過ぎることで照明を強めにしがちなので、調整時にはその点を注意する。またそのため、ライブ感あるオペレーションが必要な場合は客席で行う。

〈井口／映像〉 映像室があるホールは少ないので、空いてるスペースで仮設仕込みが多い。卓とプロジェクターの距離が長いと信号の減衰が起こるため注意が必要。リアに卓を設置する場合、連絡設備モニターを使用することもある。

[仕込み]

1日目の演出家からのリクエストを受けて、照明の吊り込み機器を調整。見学者は舞台上部に上がり、実際と同様のペースで行われる調整作業を離れて見学した。その他にも特殊効果用の木の葉を降らす仕掛けも吊り込む。(15分)



仕込みの見学風景



照明を調整している様子

- ・カラーチェンジャーの装着
- ・スポットライトの位置、大きさ調整
- ・木の葉のセッティング

#### [実演演出3——転換～幕切れ] (1時間10分)

##### ・実演

1日目の続きから演出を開始。転換の方法を3パターン試した。

2-2. 暗転幕アリ／音B／鐘の音・明かり同時

2-3. 暗転幕アリ／音A／鐘の音先行

2-4. 暗転幕アリ／音B／鐘の音先行／照明：役者→全体

最後の転換のパターンを試した後に、そのまま最後の幕切れまで演じ、続けて演出提案へ移る。転換の演出は2-4を選択。

3-1. BGMナシ／照明：特殊演出

##### ・技術解説——金子／音響

風の音の表現方法、メインシーンで鳴らすBGM、1回目と2回目の鐘の音の違い、オルガンの音に変化をつけるため舞台奥からリバーブを掛けて鳴らしていること、最後のBGMも一部リバーブを掛け高音で鳴らしていること、セリフと音響の干渉についてなどの解説があった。

##### ・技術解説——宮川／照明

シラノの情熱を表現するシーンで、演出家からリクエストのあった赤い照明の照らし方について、また、その際に緑を入れて赤を強調するとともに狂気の演出を行ったことに着いての解説があった。

##### ・実演

残りの2パターンについて、続けて舞台技術者側よりプレゼンが行われた。

3-2. BGM Aアリ／照明：早くフェードアウト

3-3. BGM Bアリ／照明：ゆっくりフェードアウト

演出家により幕切れの演出が選ばれ（3-3を選択）、舞台準備のために5分ほど休憩をはさみ、最終実演へと移る。

#### 舞台実演(11:40-12:30)

1日目、2日目と選んできた舞台演出で通して実演を行う。

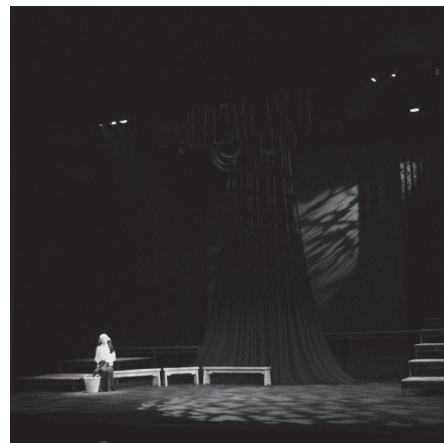
上演後、関谷氏よりまとめがあり、舞台演出見学を行った主旨が話された。(40分)

- ・コミュニケーションを行いながら舞台は制作がされること
- ・物語のテーマをいかに観客へ伝えられるか、その伝え方を考えるのが舞台制作者の役割だということ

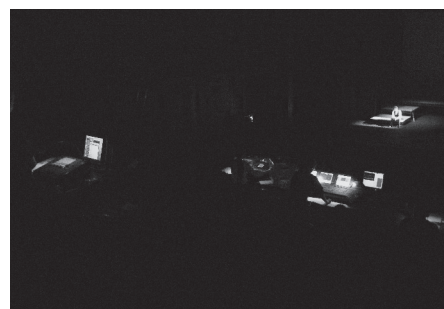
最後に、市来氏によりテキスト第3編、第1編第3章との紐付けが行われた。また、資料として別途配布していた平面図を参照しながら、サイトラインの解説が簡単になされた。(10分)

#### バックステージツアー (13:30-14:30)

参加者が多かったため、3班に別れてバックステージツアーが行われた。ツアー



転換点



客席に操作卓を設置し、操作している様子



音響室の窓を開け見学をした



客席の卓操作の見学、体験

参加の際には物を落とさないように、高所では足元に気を付けるよう重ねて注意がなされ、以下の箇所を見学した。(1時間)

- ・機構操作卓
- ・ギャラリー
- ・フォロースポット室
- ・シーリング室
- ・シーリングスピーカー
- ・音響室
- ・映像室



舞台上で座学を行う市来氏

### 座学——ガイドライン、安全について〈14:40-15:20〉

市来氏から、テキストの前に制作されたガイドラインの紹介、また、そこから抜粋して掲載した安全についての講義を行った。対象となったのは以下の項。(40分)

- ・第1編 第4章
- ・第3編(1日目の座学で話していない後半の箇所)

### 意見交換会〈15:30-16:30〉

2日間の研修、あるいはテキストに関する感想、意見を参加者から募った。パネラーには市来氏、関谷氏に加え新国立劇場の伊藤氏を、司会に東京芸術劇場の白神氏を迎え、進行した。神奈川での研修に比べ発言者は少なかったが、その分1つ1つの議題に対して濃密な議論が展開された。内容は次項参照のこと。(1時間)

[研修終了]

16:30に、白神氏の挨拶をもって終了した。



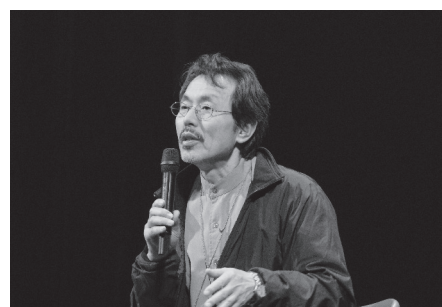
意見交換会の様子



専門学校教員からの質問、意見



施設管理者からの質問、意見



司会を務める東京芸術劇場の白神氏



全国公立文化施設協会からの意見



施設管理者からの質問、意見



パネラーの3名(左より、市来氏、関谷氏、伊藤氏)

### 意見交換会

○現場で仕事をされている方が、学生に求めるものは何ですか？（専門学校講師）

- ・即戦力がほしいが、それは難しいだろう。会社に入ったあとだと取り返しがつかないので、事前のインターンシップが有効だと考える。ただ、インターンの受け皿をサポートする機関をつくる必要はあるだろう。
- ・石の上にも3年だが、3年続かない人も多い。学校でも卒業したての若者をサポートしてほしい。
- ・楽しさを知ることが一番。過酷な環境でも楽しければ続けられるので、とにかく面白いということを知ってほしい。

○教材の完成版は全国の劇場関係者にぜひ読んでほしい。多くの公立ホールの典型が、劇場法の形にシフトしていくには、何から始めればいいのか。（公立文化施設職員）

- ・東京芸術劇場も過去は貸館のみだったが、技術スタッフが入ったことで、貸館の幅も広がった。劇場法をもとに職員の必要性を訴えることは重要。
- ・委託のスタッフに小さくてもいいので、ものづくりに関わってもらうことが大事。そういったことを契約に入れることもひとつあるだろう。一緒に楽しいものを発信する形にできると、仕事へのモチベーションや、現場の雰囲気も変わってくるだろう。
- ・全国に2000以上のホールがあるが、ほとんど自主事業はなされていない。お金も人もいない、そこから何が始められるのか。貸館を通して市民に有益な活動ができればよいし、その際に館に専門的な知識をもった人材がいれば、より広がっていくだろう。

### アンケート集計

実施：2013年12月4日(水)、5日(木)

回答数：41枚／参加者総数66名

※主催者、基準協関係者、兵庫スタッフ除く

アンケート回答者属性：

【学生】 5名

【経験年数1～3年】 15名(舞台5名、照明2名、音響3名、管理運営4名、不明1名)

【経験年数4年以上】 6名(舞台1名、照明2名、音響1名、管理運営1名)

【その他】 15名(ホール管理2名、施設職員1名、機材・機構メーカー7名、建築設計1名、水道設備1名、劇団制作1名、専門学校職員1名、不明1名)

〈1日目〉

○プログラムA：劇場の成り立ち等について(座学)

【学生】

- ・映像とかもあれば集中力を持って見られたかもしれません。
- ・ここまで細かくお話を聞けるとは思いませんでした。法律はととてもためになりました。

【経験年数1～3年】

- ・日本での劇場の歴史についてあまり詳しくなかったの、まとめたものがあってよかったです(同様2)
- ・初めて知ることも多く、大変興味深かった。時間がもっと長ければ！と感じた。(同様1)

【経験年数4年以上】

- ・歴史的な背景がよく分かり、特色によってホール形状が違うことが分かった(同様1)。

【その他】

- ・非常に勉強になりました(同様2)。
- ・教科書をゆっくり読む時間が欲しい(同様1)。
- ・テキスト以外の話も交えながら解説をしていただけて良かった。

○プログラムB：演劇作品をつくる——企画・稽古場・公演準備まで(座学)

【学生】

- ・企画の部分から入ったことがなかったので、このような話を聞くことができてとても参考になりました。
- ・他の公演の例も知りたかったです。

【経験年数1～3年】

- ・企画を買い取る側として、前段階に多くの努力があることを改めて認識するよい機会となった。
- ・本講では実演を含め演劇の公演がメインだったが、その他の舞台芸術についても知りたかった。

【経験年数4年以上】

- ・公演を実施するまでのプロセスがよく理解できた。
- ・参考になりました。

【その他】

- ・勤務先のホールにおいて自主公演としてオペラを実施

しているが、その進行と対比でき理解できた。

- ・演劇の裏側のお話を聞く機会がなかったので、予算などリアルな内容を知れて良かった。

#### ○プログラムC：演劇作品をつくる——搬入・仕込み（舞台稽古、仕込み）

##### 【学生】

- ・仕込みの現場ももう少し見たかったです。
- ・スタッフさんのマイクがスピーカーに入っていたのがとても良かったです。どう進められているかが分かり、とても勉強になりました。

##### 【経験年数1～3年】

- ・出来れば搬入時も見学してみたいです(同様1)。
- ・パターンがあり、決めてゆくさまが勉強になりました。
- ・一部分ではあったが、作品を演出し作っていく過程を非常に具体的に感じ取り理解することができた。
- ・実際の制作の流れが分かり、面白かった。
- ・解説があったため、どのような意図で音響や照明効果が出されているかが分かり、非常に良かったです。
- ・稽古風景を見ているだけ、という時間が長かったように思う。稽古をしながら照明や音響をつくっていくという観点からすると、演劇作品をつくる過程で重要な部分ですが、プログラムとしては長かったように思います。

##### 【経験年数4年以上】

- ・仕込み風景も見たかった(同様1)。
- ・配置転換を明るい状態で見ることができて良く理解できた。
- ・参考になりました

##### 【その他】

- ・稽古の基本的な流れや、演出に対する音響や照明の意図をお話しただけで、大変興味深かったです。
- ・研修参加者が実際に体験できる「実技」ではなかったことは残念ですが、日頃知らない分野を知ることができて大変勉強になりました。
- ・シーン転換など、場面一つ一つで様々な提案をやってみて、演出を決定するプロセスに驚いた。
- ・直接テクニカルスタッフの方の意図(プランニング)を伺うことが普段ないので、相互の連携なども知ることができて有意義でした。

#### 〈2日目〉

#### ○プログラムC：演劇作品をつくる——公演(舞台実演)

##### 【学生】

- ・いろんな機構が使われていて、興味深かったです。

##### 【経験年数1～3年】

- ・未経験であったため、興味深い講義であった。
- ・作品をつくる流れが分かりやすく良かった。技術面をもう少しかいつまんで見せて欲しかったです。

##### 【経験年数4年以上】

- ・何パターンか違った演出も見られて良かったが、参加者の意見を聞く機会があっても良かった。

##### 【その他】

- ・なかなか見られないものであり、とても面白かった
- ・いくつかの演出パターンを行い、最終直しを行うという流れから、一つの作品に係る全スタッフの労力がよく分かりました(同様3)。
- ・セミナーであることを思わず忘れてしまう、役者さんと舞台の皆さんの“作り込み”に心奪われました(同様1)。
- ・各分野の絡み、やり取りの重要性を感じました。
- ・学生や一般の方に公開してもいいと思う。

#### ○プログラムD：バックステージツアー

##### 【学生】

- ・設備の新しさだけでなく、それぞれの技術者さんたちが何を気にして仕事をしているかも聞けたのが良かったです(同様1)。
- ・学校内では見ることでできない設備などが詳しく知れ、すごく勉強になりました。

##### 【経験年数1～3年】

- ・本格的な舞台裏が見られて良かった。
- ・音響室の設計が参考になった。
- ・ブリッジなど、はじめて見る設備もあり勉強になった。ホールのパッチ盤など常設の回線も知りたかった。
- ・安全面の話を聞いて、もっと注意していかなければならないと思いました。
- ・ギャラリー等の機構が見学できたことが良かったです。
- ・舞台用語を実際に見ながら教えてもらいたかったです。
- ・各分野の方々に個人的に興味があることなど質問ができました。

##### 【経験年数4年以上】

- ・普段見られない場所を見られて良かった。今度はもう少し詳しく、出来れば舞台技術者の専門の研修も考えてもらいたい。

#### 【その他】

- ・参考になりました(同様1)。
- ・各場所で大変わかりやすく解説していただいて、ありがとうございます(同様1)。
- ・細かい部分から大きな部分まで、参考にしたい部分があった。
- ・貴重な体験でした。
- ・もっと機材に触れられれば良かった…と思います。
- ・詳細な機材配置図があれば、さらによく理解できたのではないかと思います。
- ・舞台のすのこ上を見てみたかったです(同様多数)。
- ・もっと時間が欲しい。

#### ○プログラムE：ガイドラインについて(座学)

##### 【学生】

- ・安全が一番気をつけるべきなのに、何かしら起こることが多いので、気を付けなければと改めて思いました。

##### 【経験年数1～3年】

- ・技術管理責任などの重要性が理解できた。
- ・本来の基礎となるべき安全対策の重要性が改めて理解できた(同様1)。
- ・安全面の話を聞いて、もっと注意していかなければならないと思いました。
- ・大変勉強になりました。

##### 【経験年数4年以上】

- ・時間がなかった感じがする。もっと一連の流れを飛ばさずに教えてほしかった。

##### 【その他】

- ・ホール自身での徹底した積極的な体制づくりが必要だと思います。
- ・現場の安全管理の表が分かりやすく、参考になった。
- ・安全についての具体的な取り組みについて、芸文センターのお考えを聞かせていただけるとより分かりやすいのではと思いました。
- ・事故例と改善例が聞きたい。
- ・地方の公共文化施設の今後について、人材育成についての話が参考になった。
- ・制作者の立場として、各セクションのスタッフと話をする上で必要だと思いました。私は舞台出身なのですが、事務方の制作者は全く板の上のことを理解していなくて怖いことが多々あります。

#### ○配布された教材[見本版]について

##### 【学生】

- ・幕の絵とかは入るのでしょうか。

##### 【経験年数1～3年】

- ・索引があれば尚ありがたい。
- ・松羽目と鏡板の違いなど、能・狂言・文楽等で使用するものについてももっと詳しく知りたい。
- ・近年の事故例など(同様2)
- ・専門用語集みたいなものがあればうれしいです(同様1)。

##### 【経験年数4年以上】

- ・字が小さすぎる。
- ・カタカナ用語だけでなく、古典的な用語も書いてほしい。
- ・大道具や劇場のありものについて。尺貫法。
- ・素晴らしい教材だと思う。できればこの教材に即した実例集などがあると理解しやすいと思う。

##### 【その他】

- ・ホール関係者にとって最良の参考書になると思います。今後(キーワード等の)索引があればよいのではないのでしょうか。
- ・教材としてとてもクオリティが高いと思いました。今後のバイブルにさせていただきます。ありがとうございます。
- ・第3篇について、今回は実技を見ながらだったので分かりやすかったですが、文章だけだと伝わりにくいので写真があった方がいいと思います。
- ・舞台機構の項目の内容が照明等に比べて薄い気がします。もう少し写真や図があった方がいいと思います。
- ・平台や箱馬、尺貫法のことも盛り込んでほしい(同様1)。
- ・イントレ、レイヤー、ハキ等の鉄骨関係(使用法、種類)。劇場の断面図。仕込み図。音響反射板の格納方法の図

# 総合的な舞台技術基礎研修に関する研究

## 舞台技術人材育成構想検討委員会

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 公益社団法人日本照明家協会      | 西山英樹   |
| 全国舞台テレビ照明事業協同組合    | 大和田恵久  |
| 一般社団法人日本舞台音響家協会    | 石丸耕一   |
| 一般社団法人日本音響家協会      | 大野正美   |
| 日本舞台監督協会           | 田中伸幸   |
| 舞台運営事業協同組合連合会      | 山出文男   |
| 公益社団法人全国公立文化施設協会   | 間瀬勝一   |
| 公共劇場舞台技術者連絡会       | 伊藤久幸 ◎ |
|                    | 岩品武顕   |
|                    | 堀内真人   |
|                    | 白神久吉   |
| 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 | 大和 滋   |
|                    | ◎委員長   |

## 教材編集・執筆者

|                    |                |
|--------------------|----------------|
| 公益社団法人日本照明家協会      | 西村 充           |
| 一般社団法人日本舞台音響家協会    | 市来邦比古          |
| 公共劇場舞台技術者連絡会       | 伊藤久幸(新国立劇場技術部) |
|                    | 井口雄一(新国立劇場技術部) |
| 有限会社空間創造研究所        | 草加叔也           |
| 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 | 大和 滋           |
|                    | 大井優子           |
| 株式会社 flick studio  | 高木伸哉           |
|                    | 山道雄太           |



文化庁委託事業「平成25年度時代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

---

総合的な舞台技術基礎研修に関する研究

## 舞台技術人材育成構想 報告書

2014年3月20日発行

編集 劇場等演出空間運用基準協議会

発行 劇場等演出空間運用基準協議会

〒160-1466 新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー 11F 芸団協内

印刷 flick studio

---

本書全部、または一部の内容の無断転載・複写および電子媒体への入力、固くお断りします。